

いあいさし

佐野 允彦

「佐野さんも自分で書いてみませんか」。2010年春、市長室でのこの一言が小野市広報誌での歴史コラム執筆を後押しした。40年間の記者生活退職後、小野市長から広報アドバイザーに委嘱されたとき、自分の紙面を持てば、と勧められたのだ。その紙面は同年9月から「おの歴史散歩」の連載としてスタートした。

それが2025年3月で終了するまでのほぼ15年間、計175回も続く超ロングランになるとは思いつかなかった。原則、小野市域を舞台にした歴史や民俗をテーマにしたので、連載100回ぐらいからネタ不足になり、さらに23年秋からはすい臓がん（ステージⅢ）を発症、体調が悪化し、執筆が難しくなった。それでも市長からは「死ぬまでやりなはれ」と叱咤激励された。思えば市長が本欄の最大のファンだったのかもしれない。

おかげで175回も書き続けることができた。その上、今般、この連載を1冊の冊子にまとめて出版していただけることになった。望外の喜びだ。私的なことながら戦後80年の昨秋、郷里の博物館で日中戦争で戦死した佐野一族の青年の遺品などの展示が「陸軍歩兵伍長佐野正吉関係資料展」として催された。我が一族のことなのに初めて知る事柄も多く、先祖の歴史、足元の歴史に改めて思いをはせた。

「温故知新」。本連載2016年4月から紙面右肩で使
い続けたカットだ。本冊子が小野市民の皆様が足元の歴史に接し、「故きを温ねて新しきを知る」一助となればこんなに嬉しいことはありません。

（2025年初冬、摺筆）

